2026年11月12日

丹青社、オフィスづくりの実態調査を実施
調査結果をまとめたレポートを公開

～半数以上がオフィスづくりで後悔。ポイントは“集中できる場”と“ふらっと話せる場”の両立～

商業施設・文化施設などの空間づくりを行う株式会社丹青社（本社：東京都港区、代表取締役社長：小林 統、以下「丹青社」）は、過去5年以内に勤務先のオフィス移転・改装を経験した従業員104名（従業員500名以上の企業勤務）を対象に、「やり直したいオフィス後悔ポイント実態調査」を実施しました。(※1)

働き方が多様化する中、オフィス環境の改善は企業の重要な経営課題となっています。本調査からは、オフィスに求められるのは、“一人で集中できる場”と“ふらっと話せる場”の両立であるということが見えてきました。レポートでは、移転・改装後に明らかになったオフィスづくりの「後悔ポイント」と、失敗を防ぐためのヒントなどをまとめています。

■調査サマリー

- オフィスの移転・改装後、60.6%が現在のオフィスに「満足している」と回答する一方で、半数以上（53.8%）が「もう一度やり直せるとしたら、変えたい点がある」と回答しました。

- 現在のオフィスに不満を感じている層の67.6%が、「移転・改装の直後から」不満や物足りなさを感じ始めていることが判明しました。

- やり直したい後悔ポイントのトップは「会議室がいつも埋まっている（39.3%）」でした。次いで「集中したい時に静かな場所がない」「動線が悪く移動に無駄が多い」が同率37.5%で続きました。

- 今のオフィスにもっとあったら良いと思う要素は、「カフェのようにくつろげる空間」と「一人で集中できる静かな場所」が同率トップ（43.3%）でした。

【WEBメディア「場と人」で本調査の詳細やレポートをダウンロードいただけます】
https://batohito.tanseisha.co.jp/workplace/office-regret-report

※1 本調査は、第三者機関のパネルを利用したインターネット調査により実施しました。

リリースに関するお問い合わせ先 ：
株式会社丹青社
広報室 担当：石綿、寺戸、武田
Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

■調査結果から見えてきたオフィスづくりにおける課題

今回の調査結果から、オフィス移転・改装において多くの企業が直面しがちな課題が浮き彫りとなりました。 働き方が多様化する現代において、見た目のレイアウト変更にとどまらず、社員の実務やコミュニケーションに寄り添った事前の計画がいかに重要であるかが見えてきます。

【課題 1】移転直後から生じる「後悔」と、設計段階のシミュレーション不足

6 割超が現在のオフィスに「満足」しつつも、半数以上が「もう一度やり直したい」と感じています。特に、不満層の 67.6%が「移転の直後から」不満を抱いている点に注目です。「動線が悪い」、「床配線で座席移動できない」といった声から、設計段階での実務フローのシミュレーション不足によるミスマッチが生じていると言えます。

【課題 2】多様化する働き方に対応しきれない「空間の機能不足」

後悔ポイントとして「会議室がいつも埋まっている（39.3%）」や「集中したい時に静かな場所がない（37.5%）」が上位に挙がりました。自由回答でも Web 会議用の個室不足が指摘されており、オープンな空間が増えた反面、個人の生産性を高める「集中ブース」や「個室」といった機能的な空間が決定的に不足している状態です。

【課題 3】「偶発的なコミュニケーション」を生む仕掛け不足

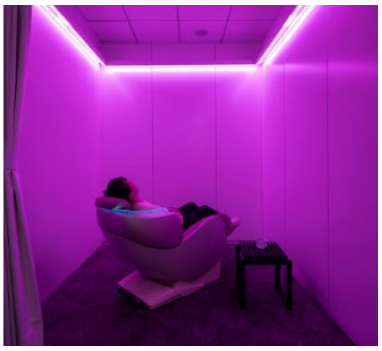
社員同士の交流やコミュニケーションを生み出す工夫については、4 割弱が不満を抱いています。最大の理由は「ふと立ち寄って話せる場所がない（52.6%）」ことです。「カフェのような空間」などのニーズからも、業務スペースとは別に、自然な交流を生む共有スペースの意図的な設計が今後のオフィスの価値を大きく左右します。

【調査概要】
調査名称：やり直したいオフィス後悔ポイント実態調査
調査機関：株式会社丹青社
調査方法：第三者機関によるパネルを利用したインターネット調査（事前調査により条件合致者を抽出）
調査期：2026 年 6 月 24 日～同年 6 月 29 日
有効回答：過去 5 年以内に勤務先のオフィス移転・改装（フロアやレイアウトの大幅な変更を含むリニューアル）を経験した、従業員 500 名以上の企業に勤務する従業員 104 名
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはなりません。
※WEB サイトでご紹介いただける場合は、下記 URL へのリンク設置をお願いいたします。
※本調査内容を転載・ご利用いただく場合は、以下のご対応をお願いいたします。
・出典：株式会丹青社「やり直したいオフィス後悔ポイント実態調査」の記載
・WEB メディア「場と人」：https://batohito.tanseisha.co.jp/の併記

リリースに関するお問い合わせ先 ：
株式会社丹青社
広報室 担当：石綿、寺戸、武田
Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

■調査結果の「オフィスづくりの課題」を解決する、丹青社のアプローチ





商業空間や文化空間など、さまざまな空間づくりにおいて調査・企画からデザイン・設計、制作・施工までをトータルで手がける総合ディスプレイ業の丹青社は、その幅広い実績と培ったノウハウを活かして企業のオフィスづくりをサポートしています。今回の調査で浮き彫りになったオフィス移転・改装における課題に対しても、丹青社ならではの確かなアプローチで解決へと導きます。

【課題 1】移転直後から生じる「後悔」と、設計段階のシミュレーション不足
→丹青社のアプローチ：徹底した現状把握と、企画から施工までの一貫したサポート
移転直後の後悔を防ぐため、事前調査やヒアリングを通して現場のリアルな課題を抽出します。単なる機能的なレイアウト変更にとどまらず、自社ならではのコンセプト立案からデザイン・設計、施工までを一貫して伴走し、理想と現実のギャップをなくします。

【課題 2】多様化する働き方に対応しきれない「空間の機能不足」
→丹青社のアプローチ：「集中」と「協働」のバランスを考慮したゾーニング計画
「一人で集中できる静かな場所」と「カフェのようにくつろげる空間」という相反する性質の空間をオフィス内に共存させるため、音の干渉を防ぐレイアウトや明確な動線計画を立案します。空間データ分析や従業員アンケートによる会議室・個室・防音ブースの適正数の算出もご支援可能です。

【課題 3】「偶発的なコミュニケーション」を生む仕掛け不足
→丹青社のアプローチ：多様な分野の空間づくりで培ったノウハウを活かした「交流空間」の設計
商業施設やミュージアム、エンターテイメント施設など、さまざまな分野の空間づくりで培ったノウハウをオフィスづくりに転用し、丹青社にしかできない「交流空間」を設計します。

オフィスの移転・改装をご検討の際は、下記関連サイトよりお気軽にご相談ください。
▼ウェルビーイングで「働く」を変える―丹青社がデザインする“これからのオフィス”
https://solution.tanseisha.co.jp/office-design

リリースに関するお問い合わせ先 ：
株式会社丹青社
広報室 担当：石綿、寺戸、武田
Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

■ 丹青社について

「空間から未来を描き、人と社会に丹青（いろどり）を。」をパーパスに掲げ、こころを動かす空間づくりのプロフェッショナルとして、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、さまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなっています。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出や運営まで、空間づくりの幅広いプロセスをサポート。空間を体験のメディアととらえ、彩りあふれる持続可能な社会の実現に向けて、新たな価値の創造に挑戦しています。

社名　：　株式会社丹青社
所在地：　〒108-8220 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 19F（本社）
創業　：　1946 年 10 月
資本金：　40 億 2,675 万 657 円（2026 年 1 月 31 日現在）
上場　：　東京証券取引所プライム市場
　　（証券コード：9743／業種名：サービス業）
URL　：　https://www.tanseisha.co.jp

80th ANNIVERSARY
かさねよう、丹青（いろどり）

■ お問い合わせ先

株式会社丹青社 広報室 担当:石綿、寺戸、武田　Mail: pr-staff@tanseisha.co.jp Tel: 03-6455-8115
お問い合わせフォーム：https://www.tanseisha.co.jp/contact/pr

※ニュースリリースに掲載された内容は発表日現在のものです。
予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。